

年末年始需給対応緊急オンライン説明会のご挨拶

Point1 緊急説明会開催の趣旨

現在、酪農乳業における課題は2点

- ①飲用不需用期である年末年始に、相当量の処理不可能乳が発生する恐れ。
 - ②コロナの影響による業務用を中心とした需要減退で、脱脂粉乳・バター在庫が過去最高水準となっている。
- 本日も説明する内容は、①の年末年始の一時的かつ緊急的な需給対応
物理的に生乳の受入処理ができなくなる可能性があり、関係者が一体となって対応に万全を期す必要がある。

Point2 酪農乳業産業基盤強化特別対策事業の活用(乳業者へのお願い)

乳業者のご協力もあり生産基盤が強化され、生乳生産がようやく回復してきたところ。

しかし、年末年始に万一処理不可能乳が発生させてしまうと、減産へ舵を切らなくてはならない事態も想定。

生乳生産量が減少に転じると

- ①コロナ後の需要回復に对应されなくなるとともに、近年課題となっている、夏季における生乳ひっ迫に拍車。
- ②再びバター不足問題等が再燃し、酪農乳業への不信感が増大する可能性の恐れ。

今後の酪農乳業の成長のためにも、「生乳生産基盤の維持」を目的に酪農乳業産業基盤強化基金を活用させていただきたい。

Point3 要望を踏まえて事業を構築

こうした背景を踏まえ、Jミルクでは、今年度に限った緊急的対応として、特に厳しい緩和期の生乳の一時的な出荷抑制と牛乳の消費促進に関する取り組みを業界内で推進するため、緊急コロナ対策事業を措置。こうした事業を後押しとして活用いただき、この難局を乗り越えるために、関係者が一体となった取り組みをお願いしたい。